

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500138		
法人名	株式会社 グレープ由利		
事業所名	グループホームいなほ 2号館		
所在地	秋田県由利本荘市大浦字八走123-7		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の現在までの生活を大事にしなが、施設でも安心して安全に、楽しみを持ちながから笑顔で生活できるように、日々業務にあたっている。職員は、日頃より利用者を人生の先輩として敬い、尊敬と感謝の気持ちを持って接するようにしている。地域の方が気軽に立ち寄ってもらえるように、町内会行事への参加、日常の挨拶や言葉掛けを心掛けている。事業所としては、積極的に意見を取り入れ、改善に向けた取り組みを日々続けていくことで、利用者様と職員がゆとりを持って笑顔で過ごせるような環境作りを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を実践するために、職員一人一人の理念を施設内に掲げ、更新しつつ、日々のサービスに繋がられるように努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、日頃よりお世話になっている。今年はコロナウィルスの影響で町内会との積極的な交流は行えていないが、お花や写真を頂いたりなど良好な関係が続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の交流の場として活用してもらいたいと思いい、「子ども110番の家」として登録している。コロナウィルスの最中ではあるが、出来る限りの協力はしていきたいと考えている。認知症の相談がきたら対応できる体制は整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。今年にはコロナウィルスの影響で実際の会合は開けていないが、各委員へ定期的に資料を作成して送り、現状がわかるよう伝え続けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を行った際は、毎回地域包括支援センターの職員に参加して頂き、市内の情勢や行事について情報を提供してもらっている。分からないことや困ったことがある時は、相談しアドバイスをもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせずに開放的な施設でありながら、センサーやカメラを活用し見守りを強化することで、離設を防止している。拘束しないケアを実現するため、利用者一人一人の要求に対し、質の高い生活を提供して納得して頂けるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で学び、知識や認識の強化に努めている。施設外でも虐待を発見した場合には、通報する義務がある事も勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部から講師を招くなど、職員研修を通じて勉強している。必要な時は、情報提供できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で、十分な説明を行い納得して頂いてから契約するようにしている。料金改定時は、事前に情報を流し電話で説明を行い、具体的な数字を出して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常会話や家族の面会時に話をする機会を作り、意見を運営に反映させている。家族会を開催し意見や要望を伺う機会を設けている。ご家族様からアンケートを取り、お祭り等の行事に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、日常的に意見や思ったことを管理者に伝えている。毎月の各種委員会・会議などで、話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修等についての情報を提供し、資格取得のために勤務調整など配慮している。就業規則において人事評価の基準を公表し、キャリアパスの内容に応じて給与を定め、職員の意欲や処遇の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年の研修計画を策定し、職員へ内部研修を実施して資質の向上に力を入れている。今年はコロナウィルスの影響により外部研修にはあまり参加できていない。また、それぞれの研修内容は、復命書や議事録にて回覧し、全職員が確認できるような体制である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、他施設職員との交流や研修に励んでいる。見学対応など、自施設の情報は積極的に提供するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで、本人と面談し安心して入所して頂けるように努めている。入所後に、声掛けや傾聴を多くし、ご本人の要望や訴えがある時には、できるだけ意思に添える様に職員間で話し合い、意見交換を経て不安の解消に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期相談の段階、または入所後の面会時等にも、家族が困っていることや要望を伺い、サービス内容について説明している。入所させることに家族が後ろめたさを持たせないよう、充分家族の思いを受け止めるように努力している。			
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を保ち、食事の準備や片付け、洗濯等できる範囲内での役割を持って頂けるよう支援している。			
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様には日々の暮らしや健康状態が分かるように写真やお手紙を送付している。今年はコロナウィルスの影響で面会や外出に制限があるが、例年では希望に沿ってご家族様と一緒に過ごし、自由に外出して頂けるように支援している。			
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナウィルスの影響で面会や外出に制限があるが、例年では家族だけでなく、友人や親類の方との面会、電話のやり取りが多くある。			
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業等で利用者同士の関係性を深め、協調性を保てるように努めている。			
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了にあたり、ご家族様や担当ケアマネジャーとの話し合いを持ち、退所後も支援相談できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人がその方らしく生活できるように、きちんと対話をして、その情報を職員間で共有し、カンファレンス等で話し合うようにしている。		
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報シートをしっかりと呼んで把握する。本人との普段の会話から知ることが多いので、利用者と接する時間を多く取るようにしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、介護記録、チェックシートや医療連携シート、申し送り等で情報を共有している。一日の過ごし方や小さな変化なども見逃さないように、従来と現在の状態把握を心掛けている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にも意見を伺い、家族には来訪時や電話にて意見を伺っている。3ヶ月に1回カンファレンスを行い、介護計画に反映させている。日頃から、本人の意向が聞かれた時は情報として報告するようにしている。		
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やチェック表を基に、申し送り等で情報を共有している。日々変化のあった時は、丁寧に記録へ残して、その都度話し合いを持ち、それを介護計画に反映させている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室に行ったり、訪問美容をお願いしている。また、地域の夏祭りに参加したり、近隣の方のお庭を見学させてもらったりする活動があった。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、家族の希望で協力医療機関に変更した方もいる。必ず家族や本人の意向を確認している。新たな診療科への受診や、訪問歯科の利用もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、定期的に週4日に加えて、利用者の状況に応じて、必要な日に出勤する。また利用者の状況悪化時には、昼夜を問わずに対応し、医師や病院看護師との連絡、家族への状態説明、職員への指導や服薬指示等をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院への情報提供を行い、入院中は家族との情報交換や病棟を訪問して、状態を確認している。退院前には、病院で家族も一緒に担当者会議を行い退院後の支援が適切に行えるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、末期に対しての指針を説明し同意を得ている。その時々に合わせてケアの方法を家族とも話し合い、実践している。日頃から体調の観察を十分に行い、重度化しないよう早期に対応している。		
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全ての職員は、救命講習を受講している。施設の近くに看護職員が住んでおり、緊急時はすぐにかけつけてくれる。施設内にAEDも設置し、使用方法の研修も年1回行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の協力のもと、火災等を想定した避難訓練を年2回以上は実施している。運営推進会議等で、災害時の対応や避難場所の確認など地域の方と話し合い、改善につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が聞き取れて納得しやすいように、ゆっくり丁寧な声掛けをするようにしている。その方に合った声のかけ方やコミュニケーションの取り方について、職員間で統一できていない部分の改善を目指している。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも選択肢を提案し、目で見て選んで頂くなど自己決定ができるように努めている。うまく表現できない方に対しては、表情やしぐさ等で思いを汲み取ったり、言葉が出るまで待つなどの対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先させず、一人一人のペースに合わせてその方らしく1日を過ごして頂けるよう柔軟に対応している。居室で過ごしたい方は、ゆっくりと居室で休んでもらっている。レクリエーション等、利用者様の希望に沿って行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服を選んで頂き、鏡の前で身だしなみを整えている。外出やお祭りなどの行事に合わせて着替えたり、おしゃれを楽しんで頂いている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人が食べやすいように一口サイズにしたり、柔らかくして提供している。「お楽しみメニュー」の時は、旬の食材を使って職員が献立を作っている。利用者様に盛り付けしてもらい一緒に楽しみながら食事を作り、片づけや食器拭き等も協力して頂いている。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量が不足している利用者への対応、声の掛け方、職員間の連携には課題があり、自然なかたちで摂取して頂けるように日々試行錯誤している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔内の清潔を維持して頂く為、口腔ケアを行っている。義歯を使っている方には夕食後、洗浄剤を利用して頂いている。歯磨きコップや歯ブラシの消毒も定期的に行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや習慣を把握し、その方に合ったパッドの使用や、トイレへの声掛けをしている。トイレで規則正しく排泄し、気持ちよく過ごして頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認して服薬調整するなど、看護師と相談しながら個々に応じた支援を心掛けている。食事と水分に気をつけ、乳製品などを取り入れている。また、散歩や運動なども行い、便秘予防に働きかけている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴であるが、入浴の時間帯(午前・午後)や入る順番は、本人の意向や身体状況、処置の必要性等により調整している。その方に合わせた介助を統一することで、気持ち良く入浴して頂けるように支援している。		
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は、全て自宅から持ってきて頂いている。安眠して頂けるように、室温を調整し、寝具は定期的に交換して清潔を保つようにしている。日中の活動量を多くし、夜間ゆっくりと眠れるよう配慮している。休息は、ご本人のペースでゆっくりと各居室でとっている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が個々に仕分けした薬を職員が手渡し、飲み込みまで確認している。服薬の前後に職員同士で確認し合い、曜日(日時)と錠数を照らし合わせるチェックをしている。服薬後も、薬が残っていないかをチェックしてミスのないように気をつけている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理の手伝い、食器拭き・洗濯たたみ等できることをそれぞれにして頂いている。今年はコロナウィルスの影響でドライブ行事ができなかった分、おかし作り等の行事を増やしたり、施設内でも楽しめるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナウィルスの影響で外出の機会が減ってしまったが、外に洗濯物を干したり、敷地内を散歩したりなど、施設内に籠りきりにならないよう機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、トラブル防止のため小遣いを施設で管理している。お金を持っていないと不安で少額のお金を自己管理している方もいるが、トラブルにならないよう確認業務も怠らないようにしている。毎月家族に小遣い帳のコピーを送付している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば対応している。本人が電話したい時や家族から電話があった時は、電話をとりつぎ話をしてもらっている。手紙を出したい方には、切手の購入や差出の支援をする。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの不快な臭いなどには、消臭剤を置いたり換気などをして対応している。リビングには、季節ごとに利用者様と一緒に作ったちぎり絵や折り紙などを飾っている。家庭と同じように、調理の臭いがしたり、洗濯物が干されたりしている。		
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと離れた場所にイスを置き、休憩できるよう配慮している。外の景色を見ながらゆっくりと過ごせる空間がある。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を持ち込み、本人が使いやすいように整理整頓している。居室内は、本人の意向に合わせ、塗り絵や装飾品などを飾っている。		
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせ、安全に移動できるように手すりを取り付けている。杖やシルバーカー、歩行器を使用している。居室の名前やトイレ表示などは、目の高さに合わせ分かりやすい工夫をしている。		